

## 令和4年度 第2回浜田市下水道審議会 会議録

日時:令和5年3月28日(火)15時00分～16時20分

会場:市役所本庁舎 5階 議会全員協議会室

### 1 開会について (水道管理課長)

令和4年度第2回目の浜田市下水道審議会の開催について宣言

今年度10月に機構改革を行ったことに伴い、審議会の担当が下水道課から水道管理課に移っていることを説明

### 2 上下水道部長あいさつ

・年度末のお忙しい時期にもかかわらず、ご出席いただきお礼申し上げます。

・本年度第2回目の審議会ということで、夏に一回計画をし、令和4年度の決算状況や経営戦略の見直し等について審議いただく予定だったが、コロナの感染拡大により書面での意見聴取に変えさせていただいた。

・経営戦略について、下水道会計は一般会計からの繰り入れに頼る状況が続いており、非常に厳しい状況である。さらに電力料金の高騰ということが、経営状況を一層圧迫する要因になっている。そういった中、10月から上下水の管理部門を一元化したので、効率化に取り組んでいきたい。将来的にはこういった審議会等も上下合わせて行い、効率化を図ってきたいというふうに考えている。

・下水道事業の具体的な動きとしては、市街地整備について、業者選定等具体的に動き出している。本日は、来年度の公共下水道事業についてご審議いただくとともに、各種の最近の取り組み状況についてご報告させていただきたい。

### 3 浜田市下水道審議会について (水道管理課長)

- 本日の出席委員は、委員数13名中10名となり、浜田市附属機関設置条例第2条に定める定数に達しており、審議会は成立。

### 4 議事 「令和5年度浜田市公共下水道事業会計当初予算」

水道管理課企画経理係専門企画員より配布資料に基づき説明後、以下の質問がある。

#### 岸委員

予算説明資料の給与関係について、14ページ整理番号3番職員給与費は前年度に比べて約350万円減少すると見込まれており、一方で21ページの整理番号1番の職員給与費では、前年度に比べて大きく増えている。また22ページの7番の職員給与費では減少しており、増えているところもあれば減っているところもある。この理由について

教えてもらいたい。

#### 専門企画員

予算説明資料 14 ページの収益的支出処理場費の職員給与費が減少している理由は、令和 4 年度に人事異動があり、若手の職員の方に置きかわったためである。

21 ページと 22 ページの資本的支出建設改良費の職員給与費については、公共下水道事業の進捗状況により、浜田処理区の管渠整備事業のウェイトが大きくなるため、昨年まで処理場費の方に上がっていた人件費の一部を管渠費の方に上げている。

人員等は変わっていないが、担当する事業の進捗状況に合わせて職員給与費の割合を変えている。

#### 岸委員

ではこの資本的支出の中の整理番号 1 番と整理番号 7 番はセットで見ればいいのか、という考え方でよいか。

#### 専門企画員

その通りです。

#### 佐古委員

公共下水道事業とはどの地域なのか、特別会計の農業集落排水事業、漁業集落排水事業はどこの地域なのかということの説明してほしい。

#### 専門企画員

企業会計に移行している公共下水道事業については、現在、国府処理区、旭処理区、三保三隅処理区の三つがある。また、これから令和 8 年度に供用開始を予定している浜田処理区というのが新たに一つ加わることになる。浜田処理区についても、既に令和 2 年度から予算化としては組み込みをしている。

農業集落排水事業の処理区としては、美川、金城、旭、弥栄、三隅の五つの処理区がある。

#### 下水道課長

そもそも下水道事業はすべて特別会計であった。その中で国からの要請等を踏まえて地方公営企業法というものの財務規定を適用し、公共下水道事業の三つの処理区(国府・旭・三保三隅)について、いち早く地方公営企業法の一部、財務規定のみを適用して企業会計へ移行している。

残りの特別会計、農業集落排水は、浜田地域であれば美川、金城であれば雲城、旭であれば市木・都川・和田、弥栄であれば安城・杵束、三隅に河内・岡見がある。

漁業集落排水と呼ばれるものは、三隅地域しかなく、現在は、須津・青浦にある。令和3年度まではもう二つあったが、公共下水道へ統合を行った。

最後に、生活排水処理事業は合併前から行われていた事業で、農業集落排水や公共下水道といった集合処理の管路が行き届かない地域を対象に、各家庭に市が管理する合併浄化槽を設置したという事業で、三隅、旭、弥栄の3地域にある。

## 佐古委員

特別会計の収入の繰入金というのはずっとあるものなのか。本会計の方では繰入金という言葉はないので、繰入金というものは何なのか。

## 下水道課長

繰入金と呼ばれるものは、事業の中で賄うことができなかった部分を一般会計側から下水道事業にいただいている、税金である。

国が定めた基準内と呼ばれるものもあるが、下水道事業は基準外と呼ばれるものも非常に多くいただいている状況である。

## 5 報告事項1 「下水道事業の広域化の取り組みについて」

報告事項2 「令和3年度末 汚水処理人口普及率」

報告事項4 「浜田処理区下水道整備事業について」

下水道課長よりそれぞれ資料②、③、⑤-1、⑤-2に基づき説明

報告事項3 「『水道料金』と『下水道使用料』の徴収一元化について」

水道管理課長より資料④に基づき説明後、以下の質問がある。

## 三浦委員

資料⑤-2について、プロポーザル方式選定審査会というものの内容と、審査結果が2社とも1000点の満点にならなかった理由を教えてください。

また予算資料について、1ページの文章の4段目の「下水道事業」について、「水」が抜けているのではないかと。それに関しての説明で、旭町では汚泥処理を民間に委託され、堆肥化等にされて、100万円に経費が削減されたということだった。また島根県の汚水処理事業拡大の資料を見ると、資源の循環とあるので、おそらくこれも汚泥のことを言っているのかなというふうに思われる。

私は前回の会議で汚泥堆肥無料配布について質問させてもらったが、その後の対応はどうされているのか。

また、きれいな水環境とあるが、下水処理された水が何をもってきれいという表現がされているのかを教えてください。

## 下水道課長

資料⑤-2のプロポーザル方式審査会について、通常であれば設計を先に行い、工事をやる内容や数量を明らかにした上で工事を発注するが、今回こういった設計施工を一括して事業を発注した。

工事の仕様がまだ確定されていない段階の中で、ある程度の基本的な内容を示しながら、それに対して事業者がどのような方法で進めていくとか、技術的にどういうふうなことをしていくか等を提案しながら事業者を決める。そういったプロポーザル方式と呼ばれる事業者を決定する方式で、事業者を決定した。

次に、1000点満点中の点数について、私どもの方で1000点中600点という評価基準を作った。これは指定管理制度の方でも同じような制度になっている。

当然優れている提案であることは間違いないが、その中で5段階に分けて評価をしたため、1000点にならないからといって決して悪い提案ではないし、私どもが目安として作った点もしっかりクリアしており、十分事業可能だと判断したところである。

次に広域化共同化のところについて、前回の審議会で三浦委員から、汚泥堆肥等について質問いただいた中でも、マイクロプラスチックというものが出てきた。

下水道法の中で処理した水の基準というものが定められており、その基準をクリアしているかどうか、月2回定期的に水質分析を行いながら確認をしている。その中で肥料についても成分分析等しながら、今回下水道の入ってくる水、出ていく水、処理の過程の中で発生する汚泥の中に、マイクロプラスチックがどれぐらい入っているのか分析した。

入ってくる水に対して出て行く水のマイクロプラスチックの量を比較すると、約90%から99%を処理しており、汚泥として引き抜いたものにマイクロプラスチックは入っている。今回、すべての処理場で分析はできなかったが、データを取り、分析し、必要に応じて結果を示しながら、肥料に対してどういうふうにしていくのかということも、農林水産省等に意見、要望といったこともしていきたいなと思っている。

## 三浦委員

農業委員会で今私が今提案しているのが、家庭から出る合成洗剤によるマイクロプラスチックもあるが、農業の現場、特にお米を作る農家は、高齢化や経費節減ということで、一発肥料というものを最近使われるようになった。一つ入れると、継続して、段階に応じてプラスチックが壊れ、肥料が溶けてずっと肥料が効くというものらしい。一作目使った後、二作目の時にプラスチックの残骸が田んぼにあり、代かきをして、ロータリーでさらに壊されて、川の方に流れていくというものである。

農業共済等もそういったものを改善しようと言っており、国の方も考えているようだ。原因は家庭だけではなく農業の生産の場で実際に起こっており、農家がそういったものを自覚されていない。自らが原因を作っているのに自覚されていないというのが実態なので、これは縦割り行政の、下水道事業だけではなくて、環境課も農林課も、すべて皆

さん関わって協議し、啓発活動に生かしてもらったらという思いでいる。

今浜田市は、国のみどり戦略何とかっていうのに手を挙げられたように聞いている。有機農業をされる場合に、有機に適合する肥料をまくことが有機農業ではなく、土の中の微生物のことも考えて、自然循環機能を維持するという定義を踏まえて、この汚泥の肥料も勘案してもらえたらと思う。総合的に考えていただきたいという一つの提案なので、よろしくお願いいたします。

#### 下水道課長

確かに縦割りの課題については私も重々認識はしているので、関係部署ともいろいろ話をしながら、私どもが作っている肥料は有機農業には使えないものになっていたというのは承知しているが、データ等を取りながら関係部署とも今後話してはいきたいと思う。明確な回答にはなっていないかもしれませんが、ご意見承りました。

#### 田村委員

下水道整備について、会議所からも工事についてはできるだけ地元業者を使って欲しい、すべてこれで完結して欲しいということで、今まで要望をずっとさせていただいている。管路整備については、公民連携という形で実施されるということで、ありがとうございます。

処理センターについてはどうされるのかを伺いたいということと、この浜田処理区が供用開始になった時には、接続率何%を目指されて、それから浜田市全体の普及率が、浜田処理区が加わることによって、令和3年末49.1%が何%になるのかということをお教えください。

#### 下水道課長

まず、処理場の関係は、管路と同様にまずは地元経営企業の受注機会を増やすということを、これまでも市長陳情をはじめ要望いただいているためこれらを加味しながらやっていきたいと思っている。ただし、設計の部分は管路を見ていただいてもおわかりかと思うが、浜田だけの企業でできるかといえば少し難しいところもある。

今回管路についても処理場についても、なぜこういった公民連携をやるのかということで、一番は私たちの技術力については、なかなかこういった処理場を何ヶ所も建てたものではなく、過去の建設事業に携わった諸先輩方が退職し、技術的な継承というものもなかなか難しいのかなど。

そういった中で最大限民間の技術力というのを活用したいと思っている。特に処理場の水処理の根幹の設備である機械設備については、基本的には市内の業者をメインとは考えているが、経験というところも踏まえると、一部工事については、県内等の実績を持った企業を入れていかなければいけないのかなどと思っている。当然、地元企業の受注

機会というのを一番に考えながら、意見交換等を現在してきているので、その中でいただいた意見等を集約しながら、仕組みは作って参りたい。

また、浜田処理区の接続率について、今目標としては供用開始から 10 年目の接続率という設定で 61.4%（戸建、公共施設、事業所すべて入れた数字）になっている。

普及率については、浜田処理区の供用開始ができると考えている令和 8 年度末の時点で、浄化槽の若干の伸びも含んだ目標として、58%を目標にさせていただいている。

#### **渡辺委員**

浜田駅前を下水道工事するにあたって、密集しているところとか、渋滞するところだと思うが、今後通行止め等されるのにあたって、他の老朽化した上水、都市ガス、通信ケーブル等、せっかくならそういうのをコラボして工事をするべきだと思うが、いかがか。

#### **下水道課長**

私どもも考えており、上下水道はもちろん道路・ガスなどを踏まえた、この事業に特化した連絡協議会といったものを設置しており、今後事業進捗していく中でいろいろ話をしながら検討し、効率的に整備を進めていきたいと思っている。

## **6 その他**

次回の審議会について、8 月ごろを予定しており、内容としては令和 4 年度の決算について報告をさせていただき、ご意見等を賜りたい。

最後に、今年度末をもって退職する二名からご挨拶をさせていただきたい。

#### **上下水道部長**

水道審議会の方でもご挨拶させていただきましたが、この 3 月で定年ということになります。下水道に関しましては、令和 3 年から令和 4 年度、部長になりましたから、携わらせていただいております。

特に長年の懸案であった浜田処理区の市街地整備について、ようやく具体化にこぎつけたということで感慨深いものがございます。こういった事業に携わらせていただけたのも、皆様方のおかげだと思っております。

本当に 2 年間いろいろお世話になりました。ありがとうございました。

#### **水道管理課長**

上下水道部に移動して参りまして 2 年お世話になりました。ありがとうございました。今年度の 10 月に機構改革を行いまして、水道事業、下水道事業の事務部門の統合ということで、組織の方も改編いたしました。どちらの事業も経費削減というのを求め

られております。少しずつですけれどもこういったことを行いながら、残った方たちがきっと経費削減、経営改善というのを引き続き取り組んでくれますので、皆様方も末永く水道事業下水道事業の応援をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。